ペルーアンデス・ブランカ山群トレック

世界で一番美しい峰と言われているアルパマヨ峰（5947m）

南米ペルー、ブランカ山群は東西５０㎞南北２００㎞に渡り 6000ｍ峰 25 座を抱える、南米最大の山群で、ユネスコ世界遺産にもワスカラン国立公園として登録されている。その主峰がペルーの最高峰ワスカランで、標高 6768ｍ。その巨大な山の姿は、6000ｍの鋭峰が連なるブランカ山群の中でもひと際大きく印象的でであった。

期　間 2014 年５月３０日～6 月９日

参　加　石川　誠　（71 才）・佳子　他６名

行　程　アルパインツアー　アンデス・ブランカ山群トレック 11 日間に参加

ツアーリーダー本多氏他 8 名の参加者は、遠くは広島、岡山からも参加されていた。

5/30 日（晴）成田 15:55 発（ＤＩ296 便）－アトランタ夕方着、乗り継いで空路、赤道を越えて夜ペルー首都リマ着 23:20　やはり南米ペルーまでの飛行時間は長かった。早速空港前にあるラマダホテルに入る。

5/31 日（晴）リマ発-ワラスへ専用車で約８時間　専用車でパン・アメリカンハイウエーを北上、途中から山地に向かいユネスコ世界遺産に登録さ

「ワラスの街から見上げるワスカラン」

れた、ワスカラン国立公園の山並みを一望する
コノコーチャ峠（4050m）越えて、ペルー最高峰ワスカラン（6768m）を初めワンドイ、
チョピカルキ峰などが見下ろすワラス（標高 3050ｍ）のホテルに入る。

6/1 日（晴）ワラス発高所順応を兼ねて専用車で特別入域許可の必要なラフコルタ湖（4250ｍ）を往復名峰ワンツァンの大氷壁を望みカルワス（2650m）のロッジへ

「ワスカラン 6768m」

朝方、ロッジで国際山岳ガイドである平岡竜石氏とお会いする、これからワスカランに登山するとのこと。日本から 3 人の方が参加されていた。平岡氏とは 2012 年ネパールメラピーク登山後カトマンズのコスモトレックで大津さんに紹介された方で南米の山々の登山ガイドとして有名でもある。

6/2 日（晴）　専用車でウルタ谷からウルタ峠（4890m）を往復高所順化の為、2 時間程峠まで歩く。
氷雪が美しいコントライエルパス、鋭鋒ウルタ、チョピカルキ峰を望みながらウルタ谷を散策しその後ケウシュ（3500m）で　テント宿泊

「インディオの人たち」

6/3 日（晴）朝車で、ワスカラン、ワンドイなどのアンデス屈指の大パノラマが開けるヤンガヌコ峠（4767ｍ）越えてチョピカルキを望むヴアリケ（3700m）へ、ロバのキャラバンと共にトレッキング開始、鋭いチャクララフ東峰を眺め、緩やかにワリパンパ谷を進み、ピラミデ、パロンを望むパリア谷の出合い（3800m）へ幕営

6/4 日（晴）　タウリラフを仰ぎながら谷を詰め、トレックのハイライト・ウニオン峠（4759m）へ、タウリラフ、キタラフなどの雪山と氷河のパノラマを見ながら広い圏谷のタウリパンパ（4100m）へ下り幕営

「黄色の可憐な花」

6/5 日（晴）　アルパマヨ、キタラフ、タウリラフなどの雪山を眺めながら湖と草原と林が美しいサンタクルスのＵ字谷を歩いてヤマコラル（3600m）にて幕営

6/6 日（晴）　ヤマコラルよりカシャパンパ村（2900m）に下りトレッキングを終了。専用車でサンタクルスやワンドイの峰々を見ながらワラスへホテル泊

6/7 日（晴）ワラスを早朝に出発し、車でブランカ山群の山々を眺めながら 8 時間程でリマへ
夕食後空港へ

6/8 日（晴）深夜デルタ航空（ＤＬ 150 便）でリマを発ちアトランタ経由

6/9 日（曇）リマから 20 時間余りの機上で東京成田には 14:08 分無事到着、トレッキングを終える。

「ウルタ峠からのコントライエルバス 6036m」

「リャマの行進」

「チョピカルキ峰」

「村の中の子どもたち」

「ウルタ谷圏谷」

「バリア谷キャンプ地」

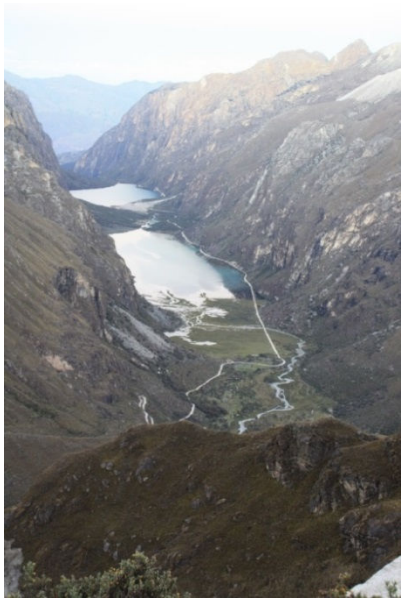
「チョピカルキ 6345m」

「ワスカラン」

「タウリラフ峰 5830m」

「ワスカラン」

「ウルタ谷対岸からのワスカラン南峰南壁」



「ヤンガヌコ谷圏谷」

ヤンガヌコ峠（4767m）から見た、『ワスカラン』(6768m)

「焼けるワンドイ 6395m」

「ナキウサギ」

「リマリマの花」

「ワスカラン北峰 6655m」

「チョピカルキ 6354m」

「草原に憩う」

「水鏡に写る美しきチョピカルキ峰」

「ルピナスの花」

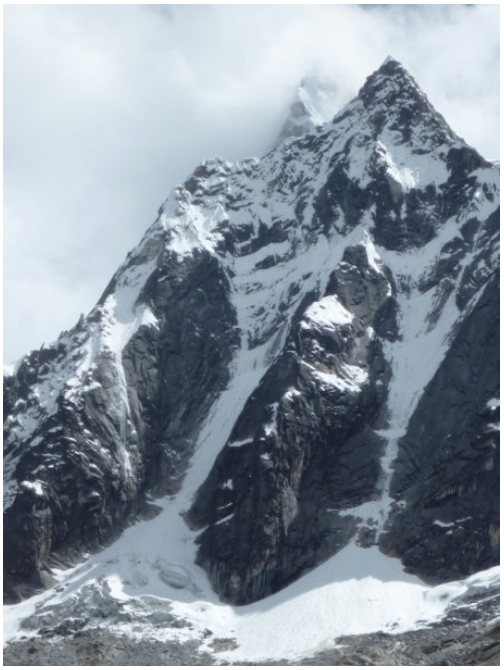
「朝焼けのアルテソンラフ 5999m」

「キタラフ 6036m」

「タウリラフ 5830m」

「ウニオン峠 4750m」

「リャマに荷物を託して」

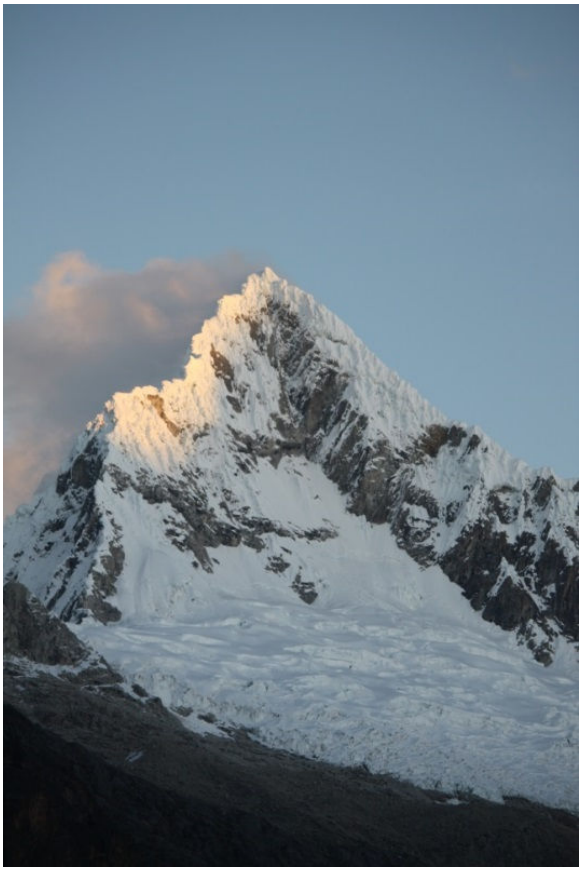


「タウリラフの氷壁」

「顔の艶が良いリャマ使いの親父さん」

「齢 71 才頑張りました」

「サボテンの赤い花」



「キタラフ 6036m」

「ルピナスの群落」

「ワスカラン」

「ウニオン峠を目指して」

「サンタクルス峰 6259m」

「ワラスの街角で」

「紫と白の花が入り混じって」

「色鮮やかな可憐な花」

「ペルー楽器サンポーニアを奏でる」

「澄み渡った空の下キタラフ峰 6040m」

「ブランカ山群概念図」

ブランカ山群トレックを終えて

足慣らしで出掛けた山で凍った道に足を取られ簸骨骨折により断念するなど 3 年越しのブランカ山群に行くことが出来た。目の前に開けるワスカラン峰、アルパマヨ峰、サンタクルス峰など 6000m 級の山々は本当に目を見張るものがあり、感動感嘆の思いを強くした。

トレッキング中は天候にも恵まれ、現地ガイド、ビル・ヒリオ氏を初めスタッフの方々の献身的なサポートによりテント生活も快適に過ごせ、同行したツアーリーダーのアドバイスを受けて標高 4750m のウニオン峠越えも血中酸素も順調で順化がうまく進み、参加者全員がスムースに峠越えをすることが出来て展望を楽しむことが出来た。道も、ロバ、リャマ、馬などが通行しやすいように石畳を引きつめた 15 世紀以前プレインカ時代の石積みなどが見られ歩きやすく、ウルタ峠などへの車道も太平洋岸海抜 0m 地点から一気に 4000m 近くの峠まで整備され、車窓から見える谷底はジグザグに切られ一気に切れ落ちてスリル満点。　　氷河が削り取った高度差１０００m を越える氷河圏谷には土地が隆起した褶曲運動により地層が盛り上がってそのエネルギーの凄さが伝わり地球誕生の一端がうかがえ感動しきりであった。

道端に咲く花々も可憐なものや色鮮やかなもの、寄生するランの一種までしばし目を楽しませてくれた。インディオの女性が着飾る華やかな民族衣装に山高帽はペルー独特のもので気高く老若の別なく女性が着ていて可愛らしく綺麗でもあった。　ペルー文化の一端に触れることが出来たのも収穫であり、又訪問してみたい国でもあった。　トレックが楽しく過ごせたのも天候に恵まれ、参加者の皆さんが和気藹々として、移り変わる素晴らしい山々を堪能しながら、心弾む時間を共有できたことも一因であろう。感謝

2014 年 6 月　　石川　記

「若き日に記憶留めし山の名を　初めて眺む今朝の喜び」